

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【外国語／コミュニケーション英語Ⅱ】

1. 対象 3年 英語の4技能においてかなり個人差があるが、授業には意欲的である。1年次、2年次と地域の課題を探り、地域が活性化する取り組みや提案を総合的な学習の時間で取り組んできた。また、前単元では持続可能な社会であった江戸時代についての英文を読み、SDGsに関する発表活動を行った。それらの経験も活かすことができるだろう。

2. 単元名 「Lesson 10 Bhutan : A Happy Country」 啓林館（全5時間）

3. 単元で育成すべき資質・能力の三つの柱につながる単元の評価規準

①知識・技能	・Bhutanについて書かれた英文を読んで、Bhutanの国の長を表現するための語彙や文法について理解している。
②思考・判断・表現	・「理想の国」について自分なりの考えをまとめて、話して伝えている。
③主体的に学習に取り組む態度	・グループで協働して発表内容をより良いものにしようとしている。 ・教材や発表の準備の過程で得た情報を積極的に活用しようとしている。

4. 本時の目標

理想の国を創ろう

5. 授業展開【本時】・単元】

解決したい課題や問い
What is an ideal country? Make your dream country! 理想の国とは？自分たちの夢の国を建国しよう！

考えるための材料
教科書本文（ブータンについて書かれた英文） Video letter from Bhutan（ブータンに住んでいるアメリカ人のレポート）
想定される活動
読んだ内容に基づいて、ブータンを世界一幸せにしている要素を理解し、幸せな国の条件などについて考える。資料を読み取ったりしながら、自分が国を作るならどのような要素や取り組みを導入するか考える。また、グループメンバーと意見を交わし考えを深める。グループで協働し、他の国にはない魅力を備えた自分たちの国を建国する。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）
① “What is an ideal country?” についてまず、自分で思いついたことを付箋に書き出す。（重視すること、禁止事項や義務、国の名前など） ②グループになり、他のメンバーと意見を交換し、模造紙に近い考えをまとめる。（KJ法） ③グループで話し合い、与えられた条件を基にグループ独自の“an ideal country”について考え、まとめる。また禁止事項やルールも設定し、修正することでより良いプランにしていく。 ④グループ発表を行い、その後どの国に住みたいか投票する。その際、英語で理由を記入する。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）
・Our country values kindness. In this country, everyone has to be kind to others and do volunteer work at least twice a month. The people can get a great present from the government for your kind act at the end of December. ・The name of our country is Magical Disney Kingdom. The country values creativity and magic. In this country, everyone must sing Disney songs at moon and wear costumes.